



大島事業所トピック

No. 315

平成 18 年 10 月 25 日

島しょ農林水産総合センター大島事業所発行
〒 100-0212 東京都大島町波浮港 18
Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383
ホームページ <http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

よみがえれ「ヒロメの森」

--- スポアバックによる母藻投入試験 ---

大島事業所では今年も、大島の元町地区の弘法浜、岡田地区の碁石浜、小口、それから利島においてヒロメの母藻投入を行い「ヒロメの森」復活のための取り組みを行いました。

・「ヒロメの森」復活に向けた取り組み

ヒロメ（和名 アントクメ）は、サザエやアワビの餌として、また、様々な生物の棲家として非常に重要な海藻です。しかし、大島では平成 10 年頃からこの「ヒロメの森」が急激に衰退しました。大島事業所では、種を出す準備ができたヒロメを海中に移植する母藻投入という方法により、平成 14 年から新たな「ヒロメの森」を作る試みを行っています（図 1）。



図 1 碁石浜における母藻投入（スポアバック法）

昨年は、大島の元町地区の万立浜、岡田地区の苗の根、小口、利島において母藻投入を行いました。このうち万立浜の母藻投入地点では、今年の 7 月に 500 株を超えるヒロメが確認されました（図 2）。また、苗の根、利島でも数十株のヒロメが生えていました。一方、小口においても 7 月に約 30 株のヒロメが認められましたが、葉の長さが 10 cm ほどと短く、葉の周囲には魚によるものと思われる食痕が残っていました。

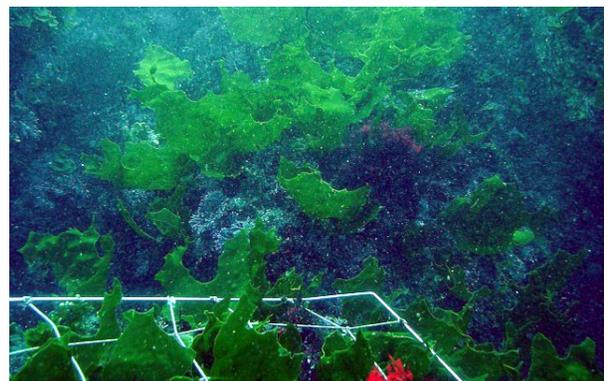


図 2 万立浜に生えたヒロメ

・母藻投入試験成功の鍵は？

これまでの実験で母藻投入は、ヒロメの全くない場所に新たな株を生育する方法として有効であるということが実証されています。しかし、母藻投入の翌年、ヒロメが生えるものの、その後、ブダイなどの魚類と思われる食害により、葉が短くなり、継続してヒロメが生えないという場合もありました。食害のある場所では、その対策が必要です。

平成 10 年にヒロメが衰退して以降、大島の南部から東部地区にかけてのヒロメは回復傾向にあります。しかし、北部から西部地区では、ヒロメの回復が遅れています。今後、この地区を中心としたヒロメの森の造成策が必要です。また、食害を防ぐ手段として、ヒロメの幼芽を目合 1 cm ほどのステンレス製のかごの中に入れておくと、食害を受けずヒロメは順調に大きくなることが分かりました。今後は、母藻投入と食害対策を併せて行い、大島のヒロメの森の復活を目指していきたいと考えています。



大島事業所トピック

島しょ農林水産総合センター大島事業所発行
〒100-0212 東京都大島町波浮港18
Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383
ホームページ <http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

黒潮はN型流路を継続

中央水産研究所および各都県の海況担当者がメールで協議し、平成18年10～12月の海況予測が変更されました（平成18年10月19日付け）のでお知らせします。

○海況予測（2006年10～12月）

黒潮は期間中、小規模な変動を伴うN型で推移する。

○水温の予測

伊豆諸島北部海域の水温は「低め」～「きわめて低め」と予想しました。

○予測の根拠

6月に九州沖で発達し、A型海況をもたらすと考えられた小蛇行は、九州～四国の沖合に依然として存在しています。全体が動かずに小蛇行の一部が分裂し、次々と潮岬を通過し、東進しています。本体の小蛇行は徐々に東進しており、今後A型になる可能性はありますが、少なくとも12月まではA型になる可能性は低いと考えられます。

○現在の海況

遠州灘沖の黒潮北縁域を冷水渦が断続的に東進しています。この影響で伊豆諸島では変動が大きくなっています。遠州灘沖の黒潮は33°N付近を流れていて、離岸傾向傾向が継続しています。

海況状況に変化があった場合、改めて最新の情報を皆様にご報告したいと思います。なお、海況の変化によって漁模様も大きくかわるので、今後の「一都三県漁海況速報」にご注意下さい。